

胃腸の役割、、、とNST



栄養管理において経腸栄養が基本です。
今回はその中心となる胃腸の役割をまとめてみました。

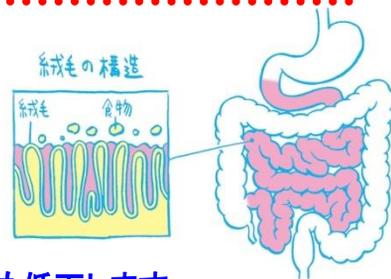
□ 胃

- ・食べ物を数時間貯留し攪拌します。
- ・胃酸で食物を殺菌し腐らないようにします。
- ・消化酵素で食物をどろどろに溶かし十二指腸に流れていきます。
- 水分は2時間位で排出されるので手術2時間前までは水分摂取が可能なのです。
- ・胃に食物が入ると反射的に腸が動きます。
- 食後便意があるのはこの胃大腸反射のためです。



□ 小腸(十二指腸、空腸、回腸)

- ・色々な消化酵素で食物をさらに分解し、吸収します。
- ・小腸粘膜には絨毛と言われる細かい突起が密集し、すべて広げるとテニスコート1面分の面積にもなると言われています。
- ・さまざまなリンパ系組織があり免疫能の大きな役割を担っています。
- 長期の絶食により小腸が痛み、消化吸收障害のみならず免疫能力も低下します。
- ・1日3~4ℓの消化液が流れます。
- ・一般的に開腹術後半日ほどで蠕動運動は正常化します。
- 開腹術後、少なくとも水分の早期摂取は問題がなく、絶食による小腸の損傷も抑えられるのです。



□ 大腸

- ・水分や塩分などの電解質を吸収します。
- ・食物繊維などの消化の難しい成分を、大腸菌などの腸内細菌で発酵分解します。
- ・特に盲腸周辺に小腸と同じくリンパ組織があり免疫能の役割を担っています。
- ・最終的に便を形成し排泄します。
- ・一般的に開腹術後2~5日で蠕動運動は正常化し、さらに経口摂取により蠕動運動は促されま
- す。
- 開腹術後おならが出なくても経口摂取は可能なのです。
- ただし、いたずらに早期経口摂取開始するのではなく、個々のケースにより 腸閉塞、嘔吐など注意は必要です。

